

# 建築研究所ニュース



平成 23 年 9 月 13 日

東日本大震災をつくばで経験した研修生が 1 年間の「国際地震工学研修」を修了し、9 月 15 日に建築研究所で閉講式を迎えます。

独立行政法人建築研究所では、毎年、開発途上国から若い研究者や技術者を招き、地震学・地震工学・津波に関する 1 年間の「国際地震工学研修」を国際協力機構（以下 JICA）と協力して行っています。1960 年に開始以来、今回の修了生 20 名を含めて、現在 79 ヶ国から 1,034 名の研修生を受け入れています。「国際地震工学研修」は、建築研究所及び政策研究大学院大学（以下 GRIPS）、JICA との連携により、所定の単位を取得すれば、修士号の取得が可能な研修となっています。

昨年10月に開講した「第51回国際地震工学研修」は、途中で3月11日の東日本大震災が起これ、ライフラインの途絶等の被害により、一時的に東京に移動しつつも研修は継続され、参加した10ヶ国20名の研修生全員が修士号学位を取得し、無事1年間の研修を修了し、9月15日（木）11:30～建築研究所講堂において来賓（JICA筑波・GRIPS関係者）が列席し、閉講式が行われます。

過去の研修修了生では、現在、包括的核実験禁止条約機関CTBT0のグウェンデル国際監視制度局長（1976年修了）やインドネシア教育省高等教育局のサントソ局長（1979年修了）らを輩出しております。この他、国際地震工学研修以外の約2ヶ月程度の様々な研修を含めた修了生の累計は97ヶ国=1,525名を数えております。

また、去る 8 月 24 日には東日本大震災を経験した 20 名の研修生全員が、大畠国土交通大臣のもとへ表敬訪問を行いました。大臣から研修生に対して「特に、今回の研修期間中に東日本大震災が発生し、それを身近に体験し得たことも、貴重な経験として今後に活かされるものと期待します。」との言葉をいただきました。

インドネシアからの研修生ギアンさん（インドネシア気象気候地球物理庁）は研修生を代表し、「実際に7月に東北地方の被災地を視察し、各地における津波被害の状況を知り、あらためて津波防災の重要性を深く理解しました。日本で、地震学・地震工学・津波防災のための、この研修に参加出来たことを感謝いたします。私たちはこの研修コースが次の世代にも引き継がれることを希望します。」と大臣にお礼の言葉を述べました。

<参考1：研修生の出身国名（10ヶ国=20名）>

中国（2名）、エルサルバドル、インドネシア（4名）、  
ジャマイカ、ニカラグア、マレーシア（4名）、ミャンマー、  
ペルー（2名）、フィリピン（2名）、トルコ（2名）

<参考2：大臣表敬の写真>

前列右から3人目が大島国土交通大臣（8月24日）



ご面倒ですが掲載の折には、その記録を留めるため、下記問い合わせ先へお知らせ下さい。

**（内容の問合せ先）**

独立行政法人建築研究所

所 属 国際地震工学センター  
管理室長

氏 名 黒 澤 肇

電 話 029-879-0678(直通)

E-mail [kurosawa@kenken.go.jp](mailto:kurosawa@kenken.go.jp)